

七飯町水道事業経営戦略

令和 5 年度（2023 年度）～令和 14 年度（2032 年度）

1 事業概要

七飯町では平成 27 年度までは 1 つの上水道事業（七飯上水道事業）と 2 つの簡易水道事業（藤城簡易水道事業、大沼簡易水道事業）を運営していました。より継続的に効率的な施設管理と事業経営を行うため、平成 28 年度より 2 つの簡易水道事業を上水道事業へ統合し、計画給水人口 28,000 人、計画一日最大給水量 11,410m³/日の上水道事業として事業運営を進めています。

令和 3 年度末の給水人口は 27,649 人、一日最大給水量は 11,560 m³/日であり、七飯町の全人口に対する上水道普及率は 98.8%、給水区域内人口に対する上水道普及率は 99.0%と高い普及率を達成している状況です。

表 1 七飯町水道事業の概要（令和 4 年 3 月 31 日現在）

項目	内容
創設年月日	昭和 39 年 3 月 31 日
給水区域	七飯地区、藤城地区、大沼地区
計画給水人口	28,000 人
現在給水人口	27,649 人
計画一日最大給水量	11,410m ³ /日
現在一日最大給水量	11,560m ³ /日

2 水道料金

七飯町の料金体系は、基本料金と従量料金の二部制料金を採用しており、量水器（水道メーター）の口径と使用水量に応じた料金を設定しています。

表 2 水道料金表

区分	メーターの口径	基本料金（1ヵ月当たり）	従量料金
一般用	13 mm	8m ³ まで 1,375 円	8m ³ を超える 1m ³ につき 132 円
	20 mm	8m ³ まで 1,540 円	
	25 mm	8m ³ まで 3,080 円	
	40 mm	7,370 円	1m ³ につき 132 円
	50 mm	12,100 円	
	75 mm	25,850 円	
浴場用	—	100m ³ まで 7,370 円	100m ³ を超える 1m ³ につき 71.5 円

※消費税 10%込み

3 水需要の予測

給水人口は、七飯町の行政区域内人口を推計し、普及率の目標値を設定して予測しました。その結果、給水人口は年々減少し、令和 14 年度においては 24,303 人と推計されました。給水人口の減少に伴い給水量も減少傾向で、目標年度である令和 14 年度において、一日平均給水量は 8,280m³/日となり、一日最大給水量は 10,140m³/日と推計されています。

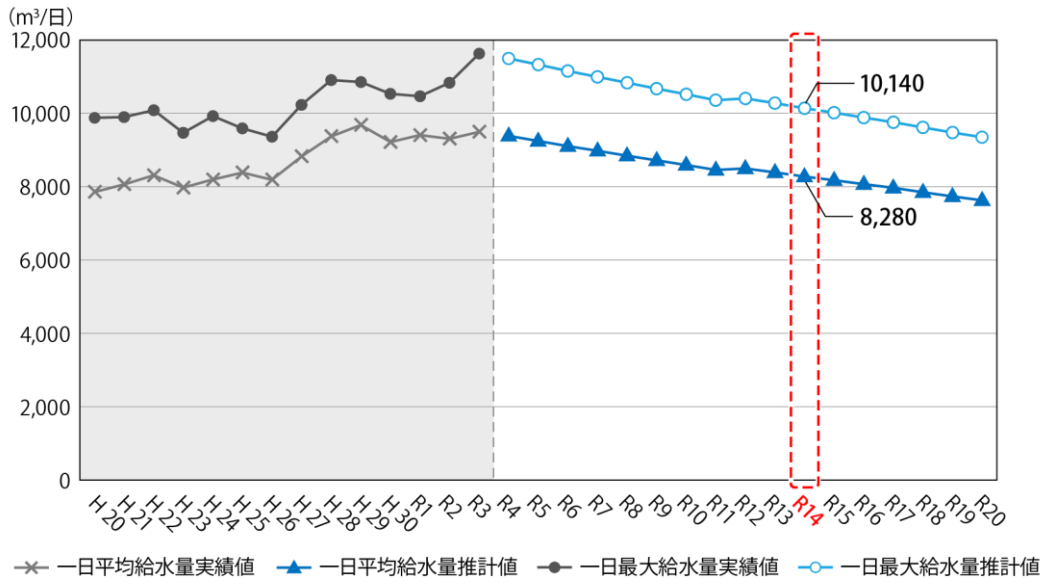


図 1 給水量の予測

4 更新需要の見通し

法定耐用年数で更新を実施する場合、既に法定耐用年数以上の年数が経過している施設・設備、管路が多くを占め、直近に更新需要が集中する結果となっています。実際にはすぐにすべてを更新することは難しく、維持修繕をしながら耐用年数の 1.5 倍まで使用する等平準化の対策が必要です。

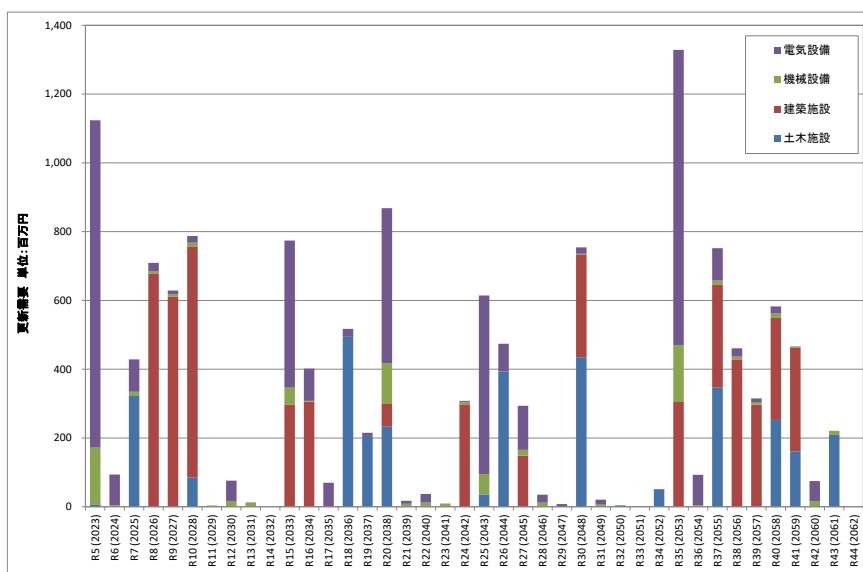


図 2 施設・設備を法定耐用年数で更新する場合の更新需要

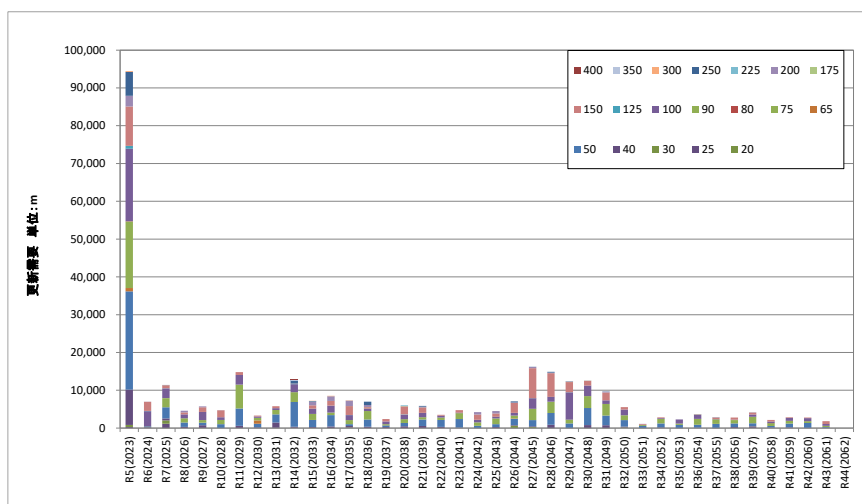


図 3 管路を法定耐用年数で更新する場合の更新需要

5 投資・財源の目標

七飯町水道事業の経営についての目標は以下に示す通りです。経営戦略の計画期間のみでなく、今後 30～50 年程度の中長期的な目標として維持していきたい水準を設定しています。

(投資目標)

目標①：管路更新（耐震化）事業を毎年 3.0km、もしくは、施設も含めて事業費 3.0 億円分の施設整備を実施します。

(財源目標)

目標①：単年度黒字を目指すとして、総収支比率、料金回収率を 100%以上に保ちます。

目標②：補てん財源残高を約 5.0 億円確保します。

6 財政シミュレーション

企業債の発行水準を以下の 3 パターン設定し、投資・財源計画を検討しました。すべてのパターンにおいて将来的に料金改定が必要となる結果が出ており、その中でも改定率や改定頻度が現実的と考えられるパターン③を採用します。

パターン①：現況水準…企業債の元金償還金と同水準だけ発行する（企債償充当率：約 30%）

パターン②：建設改良費をすべて企業債で賄う（企債償充当率：100%）

パターン③：上記①と②の平均をとった額の企業債を発行する（企債償充当率：約 60～70%）

【シミュレーション結果：パターン③料金改定なし】

パターン③で、このまま料金改定をしないものとする、令和6年度においてすぐに純利益、令和10年度には補てん財源残高がマイナス（≒水道事業の運営が不可能）となってしまいます。

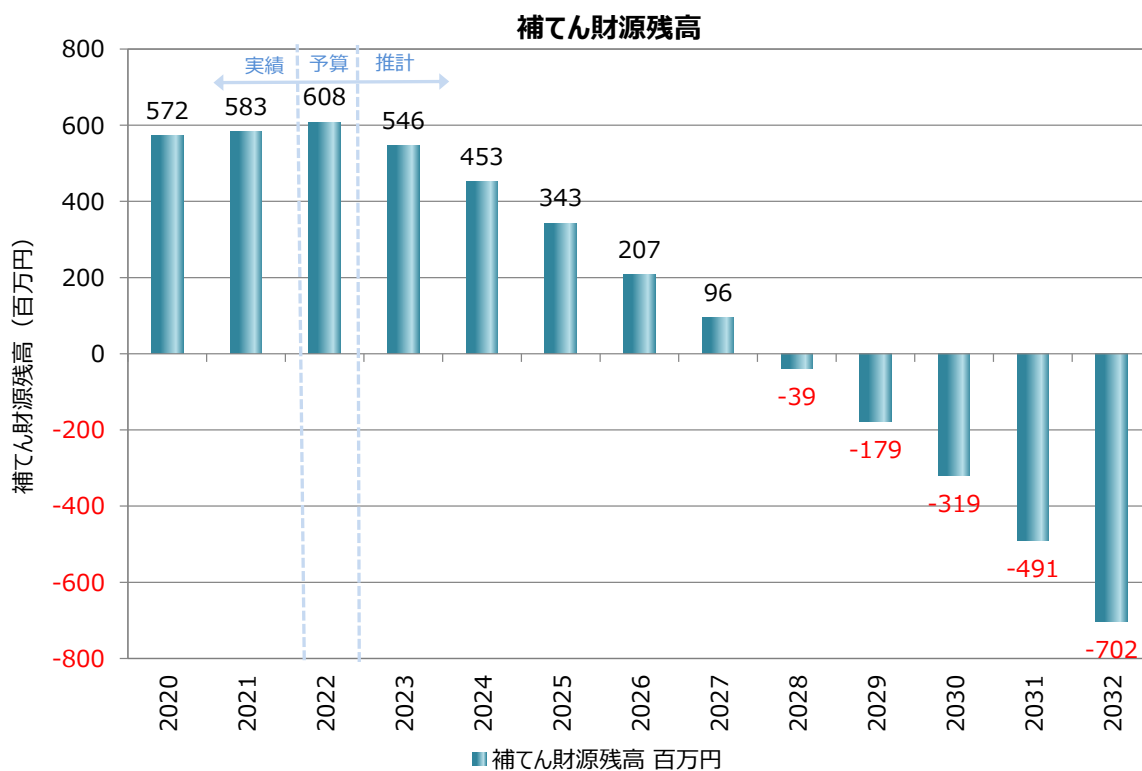
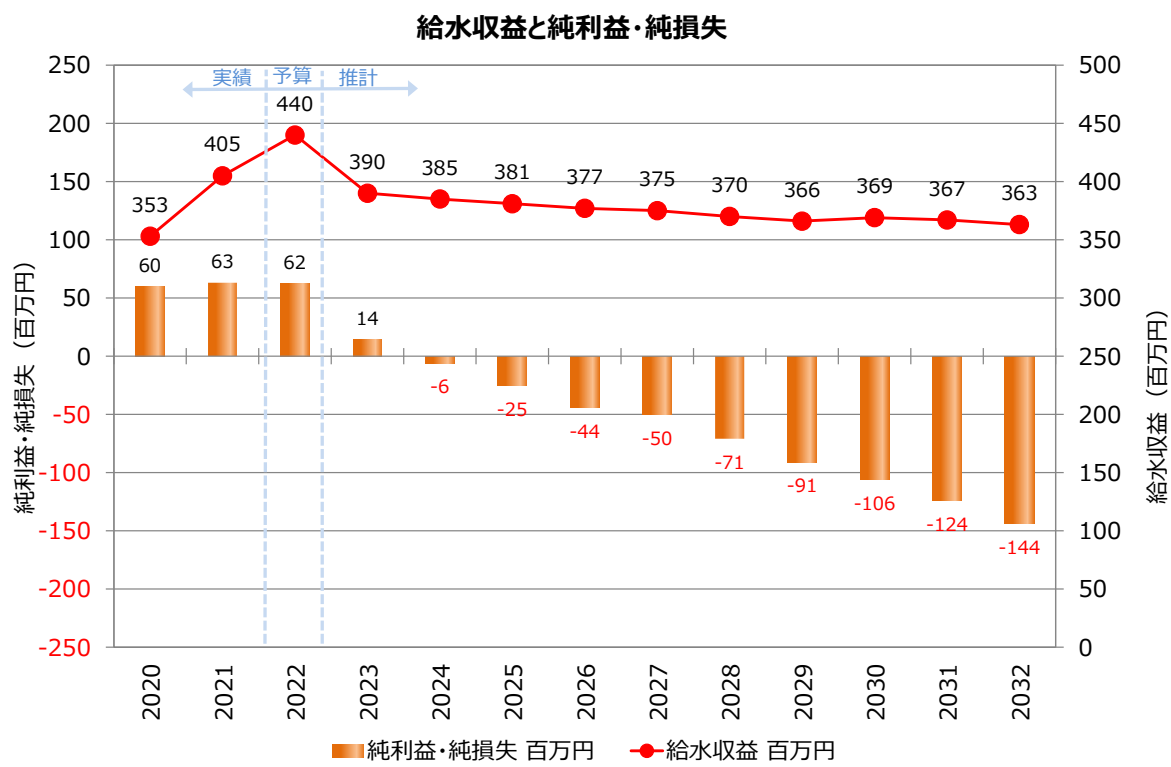


図 4 シミュレーション結果（料金改定なし）

【シミュレーション結果：パターン③料金改定あり】

パターン③の場合、純利益と補てん財源残高のマイナスを解消するために、20%の料金改定率で令和6年度と令和10年度に料金改定の実施が必要となります。

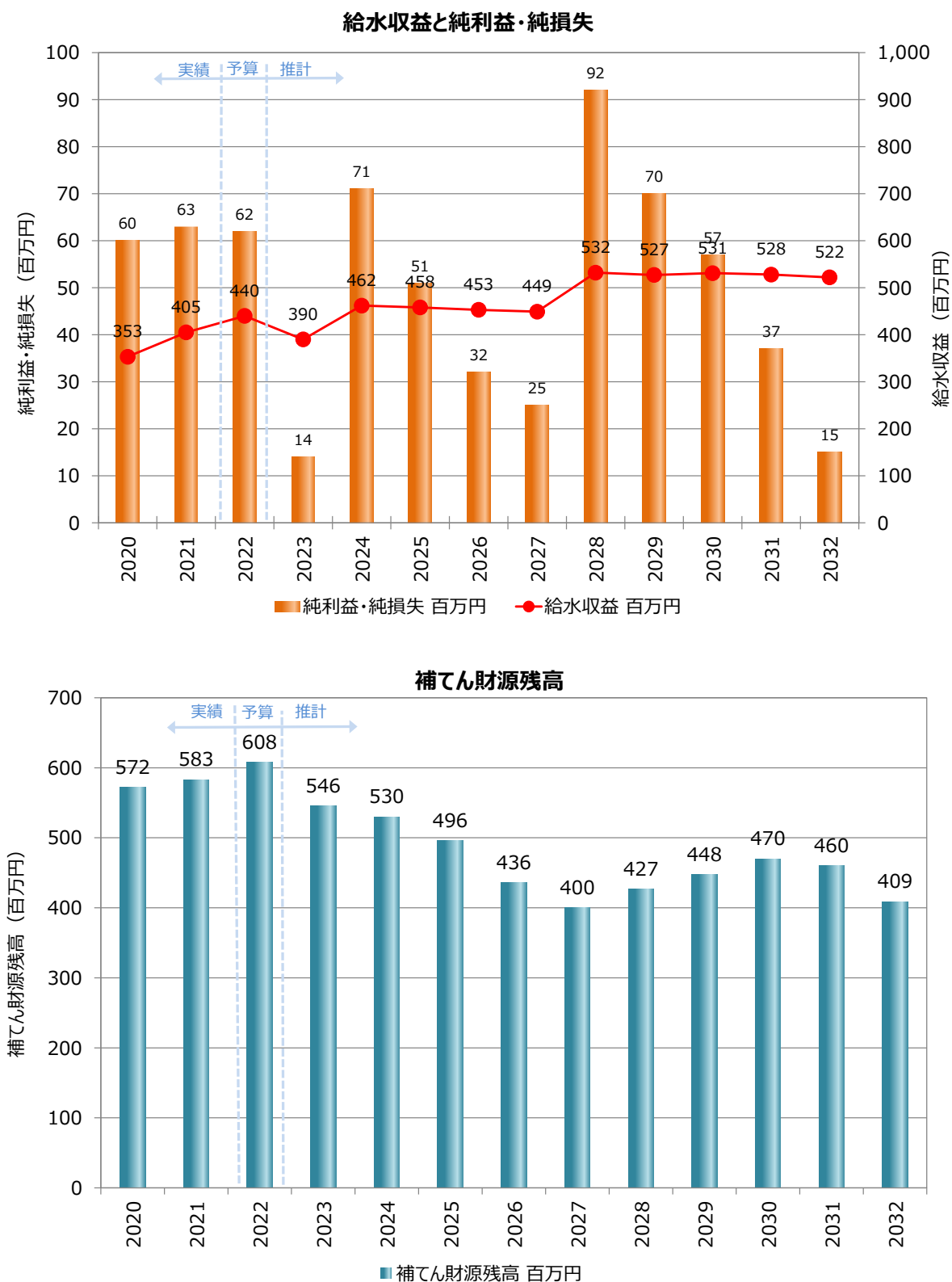


図 5 シミュレーション結果 (料金改定あり)

7 事業計画

今後 10 年間の事業計画については図 6 の通りです。

		計画年度										
		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	
		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
管路耐震化更新計画	重要管路耐震化優先事業											
	老朽管布設替優先事業	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	
その他老朽管更新事業費												
耐震診断												
水道施設耐震化更新計画 (配水池・ポンプ井)	大中山着水井	8,437										
	七飯第2配水池		13,200									
	七飯第1配水池			13,200								
	七飯第3配水池				23,100							
	七飯第3配水池		7,700									
	大沼管理棟ポンプ井			25,300								
	補強設計											
	大中山着水井	9,900										
	七飯第1減圧槽管理棟						12,100					
	七飯第2配水池							9,900				
七飯第3配水池								8,800				
七飯第1配水池									9,900			
七飯第2配水池管理棟								12,100				
七飯第3配水池管理棟									16,500			
補強工事												
大中山着水井	32,000											
七飯第1減圧槽管理棟								13,200				
七飯第2配水池									13,200			
七飯第3配水池										104,700		
七飯第2配水池									59,800			
七飯第3配水池										54,600		
七飯地区第1減圧槽更新			用地買収	実施設計 測量 地質調査	減圧槽 新設工事 (土木)	減圧槽 新設工事 (機械電気)	(供用開始)					
			1,000	26,000	132,600	56,000						
七飯地区第2減圧槽更新							基本設計	用地買収	実施設計 測量 地質調査	減圧槽 新設工事 (土木・電気)	(供用開始)	
							4,200	1,000	16,000	13,200		
水道施設機械・電気計装設備更新	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	
非常用発電設備新設工事	七飯第3配水池											
	七飯第2配水池											
水質計設置工事	七飯地区第3配水池	23,000										
	大沼第1配水池		31,000									
合計		401,437	461,900	484,500	525,700	435,900	456,200	431,100	421,200	481,500	539,200	

単位：千円

図 6 計画期間中の事業計画

8 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

本経営戦略は今後、毎年度の進捗管理と、概ね 5 年に 1 回の頻度で見直しを行い、目標の達成度合いを再度評価し、適宜改定を行う等改善を実施します。



図 7 PDCA サイクル